

「認知症」になっても

安心して暮らせる町が「いいね」

熊野町認知症にやさしい地域づくり支援事業



「新しいことが覚えられない」、「すぐ前のことも忘れてしまう」…。そんな「認知症」の症状が、日本では85歳以上の4人に1人、本町でも3人に1人に見られます。そしてこれは、今後増加していくと予想されています。

町では、本年度「熊野町認知症にやさしい地域づくり支援事業」に取り組みます。



「認知症」は特別な病気ではありません。誰でもかかる可能性のある「脳の病気」なのです。

「認知症」にならないための予防はもちろんですが、なってしまった場合の、家族を含めた周りの人の理解も非常に重要になります。



これは県から受託して行う事業で、たとえ「認知症」になっても、本人とその家族などが、住み慣れた地域の中で安心して生活を送ることができる地域づくり、町づくりを目指すものです。

主に次のような事業を実施します。

●「認知症」についての普及啓発と情報提供

認知症ガイドブック（地域資源マップ）の作成や、講演会などを行い、認知症について広く理解してもらい、取り組みます。

●徘徊SOSネットワークの構築

認知症の高齢者が徘徊で方向不明などになってしまわないよう、地域で見守り・保護できる体制の構築を目指します。



●認知症ケアの質の向上

このほかにも、町の単独事業として、「認知症サポーター（※）養成講座」を随時開催し、認知症の正しい理解のための広報・普及啓発活動を行うなど、認知症に関連した事業に積極的に取り組んでいきます。



特に、認知症サポーターには、多くの人になっていただきたいと思っております。皆さんのご協力をお願いします。

福祉課 ☎ 820・5605

※「認知症サポーター」とは

「認知症サポーター」は、何か特別なことをする人ではなく、「認知症」という病気を正しく理解した「認知症の人の応援者」のことです。サポーターは、養成講座を受ければ誰でもなることができ、また、その後の活動を強制されるものではありません。

講座を受けられた人には、サポーターの証として、「オレンジリング」をお渡しします。このオレンジリングは、全国で100万人以上いるサポーターの仲間である証となります。

「認知症サポーター養成講座」は、10人程度の少人数から会社などでの講座の開催にも対応します。ぜひ受講して、オレンジリングの輪を広げましょう。



みんなで「オレンジリング」をつけましょう！

特集

夢配達人プロジェクト事業①

夢配達人プロジェクト事業とは

（社）青少年育成広島県民会議が実施している事業で、小学生の夢を地域が支援して実現するプロジェクトです。

昨年度、熊野第四小学校6年生（現在、熊野東中学校1年生）の「小学校にプラネタリウムをプロの人に手伝ってもらって製作し、小学校の体育館でみんなで楽しみたい」という夢が採択されました。

第四小学校・青少年育成くまの町民会議・生涯学習課の関係者で実行委員会を結成し、夢配達人には広島大学天文学研究会の皆さんをお迎えし、夢の実現に向けて活動しています。



山口雅人さん

七夕の夜は

星空のロマンを

☆星をたのしむ会

七夕は一年に一度、天の川でひこ星と織り姫が会える…という伝説のある日です。そんなロマンチックな夜、プラネタリウム作り挑戦する前に、宇宙と星について理解を深めるため、「星をたのしむ会」が行われました。子どもたちは願いを書いた短冊を竹に飾ったり、シ



ンセサイザーの演奏が流れる中、夢配達人による星や宇宙の話をお聴きしました。あいにくの天候で、天体望遠鏡での星の観察はできませんでしたが、第四小学校の高木校長が、大きなスクリーンに夜空に輝く星を映し出し、まるで本物の星空を楽しんだような気分になりました。

夏休みに第四小学校でプラネタリウムを製作します。どんなプラネタリウムが完成するか、楽しみです。

観測してみよう

ペルセウス座流星群



ペルセウス座流星群は、毎年8月12日から13日ごろを中心に活動している流星群で、今年は、8月13日（未明の午前2時半ごろに最も活動が活発になると予想されています。お盆の直前となり、多くの人が楽しむことができそうです。

13日（未明の午前0時から4時ごろの観測がおすすめです。放射点のある方向だけに流星が出現するわけではなく、夜空のどこにも現れます。空が広く見渡せる場所を選んで、広い範囲に注意を向けているほうが、より多くの流星を捉える可能性が高くなります。前日と翌日の同じ時間帯にも、ある程度の流星数が期待できます。しかし、月明かりの影響で、暗い流星は見づらくなるようです。

（国立天文台HPから引用）

←七夕飾りは職場体験学習で、東中2年生の生徒4人が作ってくれました。

